



いちよう

山形市立第四小学校
校長 村上 ゆかり
<児童数 188名>

〒990-0055 山形市相生町4番37号 TEL 623-6019 FAX 633-9321

個人面談ありがとうございました。



先週より、お忙しい中面談のためにご来校いただき、ありがとうございました。6月のオープンスクールデー以来、教育活動について直接ご覧いただける機会がなく、今回は短い時間ではあったものの、担任からの話とともに子どもたちの作品等を通して知っていただける有意義な時間となったことを実感しております。コロナ禍における教育活動も3年目を迎えましたが、感染状況等によって一律ではなく、その都度子どもたちにとってより良いものになるよう判断し、実施してきました。その折々の判断による変更と実施は、保護者の皆様のご理解とご協力あってのものです。心より感謝申し上げます。本校は今年度よりコミュニティスクールとして活動しております。保護者の皆様からのご意見も、運営協議会委員の皆様と共有してまいりますので、これからもお気づきの点があれば、お知らせくださるようお願いいたします。

『乗ってみようバス 使ってみてチェリカ チェリカでGO』への参加

山形市では脱炭素社会の実現に向けて、自家用車の利用を低減することで二酸化炭素排出量を削減し、地域環境にもやさしい環境負荷のないまちづくりに取り組んでいます。その取り組みの一つとして、小学生が校外学習などの移動手段としてICカード「cherica(チェリカ)」に対応する公共交通を利用する場合に、チェリカを提供していただける事業への参加募集があり、本校では複数の学年が参加しました。

その中で5年生は、公共交通機関としてのバスの利用について学ぶとともに、障害のある方や高齢者の方など、多様な方のことを思いやる「心のバリアフリー」の学習を行いました。国土交通省やバス会社の方の講話を通して、自分たちの家庭生活には自家用車が複数必要になっていること、免許を返納した高齢者の方にとっては、バスが生活を支えるものであることを改めて知り、環境・福祉それぞれの視点をもって、乗車体験に臨むことができました。実際に車いすを使っての乗降・介助体験にくわえ、アイマスクや高齢者体験のための疑似装具をつけての乗車体験は、普段生活している世界を広く知ることに
なり、様々な感想が出ていました。山形の未来をつくる子どもたちにとて、貴重な一日となりました。





創立111周年 おめでとうございます。



10月1日の創立111周年記念式は、奨学会会長伊藤陽介様、同窓会会長矢野秀弥様にご臨席いただき、全校生がアリーナに集って行うことができました。残念ながら、ご来賓の皆様全員にご案内を差し上げることはできませんでした。今年度初めて、全校生が歌声を合わせて校歌を合唱し、学校の誕生日をお祝いしました。児童代表の6年佐藤吏空さんの言葉にもあった「四小の好きなところ」を、各学年でもお手紙や俳句、お気に入りの場所の写真など、それぞれの学習活動を通して表現してくれました。節目であるこの日を大切に、四小の伝統を受け継いで、地域の皆様とともにめざす学校を創っていきたいと思います。

《式辞より》

今日は、私たちの学校、山形市立第四小学校 111歳の誕生日です。本日、ここに、奨学会会長 伊藤陽介様、同窓会会長 矢野秀弥様をお迎えし、創立111周年記念式を行うことができますことに、心より厚く御礼申し上げます。学校の誕生日にあたり、皆さんと一緒に考え、取り組んでいきたいことをお話します。

それは、本校のシンボルである「大いちょう」のことです。「いちょう」は、なぜ四小のシンボルであり、校歌にも歌われているのでしょうか？私たちの大いちょうは、学校が建てられる前にあった「豊川稲荷神社」のご神木であり、この四小を守ってほしいという願いがこめられています。さらに「いちょう」は、ほかの木にはない力をもっているからだと思います。

「いちょう」は世界で一番古い木、「生きた化石」とも言われています。その祖先は、今から2億年以上前、恐竜が生まれるずっと前から地球に現れ、その恐竜を絶滅させるほどの大規模な異常事態が起きたときも、滅びることがありませんでした。隕石の落下、火山の爆発、氷河期、大地と海の移動など、地球上ではいろいろなことが起きて、数えきれないほど多くの動物や植物が絶滅していった中で、中国の南にある山の中で、何本かのイチョウが生き抜いていったのです。イチョウの「生きる力」の強さは、人間が生まれてからの現代社会においても見ることができます。今から77年前、広島に原子爆弾が落とされたことを知っている人は多いと思います。この原子爆弾によって、広島では、動植物はもちろん、多くの建物も壊されました。そのたくさんの「がれき」の中から、黒焦げの枝になった古いイチョウが見つかったそうです。しかし、もちろん枯れてしまったと思われたその木から、次の年の春に芽が出たというのです。また、イチョウは公害にも強く、車の排気ガスやきれいとは言えない空気にさらされても生き延びることができました。さらに、イチョウは小枝でも、挿し木をすれば自分の仲間を増やすことができます。ものすごい生命力をもった木といえると思います。

しかし、それだけなら、イチョウは、地球の長い歴史の中で絶滅したかもしれません。イチョウは、人間にとって魅力ある木であり、長い間いろいろな国で大切にされてきたのです。イチョウの実、銀杏は食べ物として生活に取り入れられてきました。また、その葉には、記憶力をよくしたり、老化を遅らせたりする働きがあるといわれ、大昔から中国の医学では、イチョウの成分から多くの薬やお茶などがつくられています。さらに、暑さにも寒さにも、そして公害にさえも負けない強さをもったイチョウは、自然と人間をつなぐ役割も果たしてきました。神社の守り神になったり、世界各地の庭に植えられたり、街路樹としても使われてきました。

どんな環境にあっても強い生命力をもって生き抜く力を持ち、社会をつくる役を担っている。この姿は、多くの困難にあってもくじけることのない自身の力を持ち、未来をつくる一員となる、という私たちが目指している姿そのものです。だからこそ、「いちょう」は四小のシンボルなのだと思います。

コロナをはじめ、世界ではたくさんの困難が生じていますが、長い年月の厳しさに耐え、今も生命力溢れる「大いちょう」のように、一人一人が自分の力を伸ばし、みんなで「明日も来なくなる学校」をつくっていきましょう。